

八、家族が創価学会員なので、脱会すると家庭内に争いが起きる

初めて御本尊を受持するとき、多くの人は、一時的にせよ、家族や親類、友人などから反対されたのではないでしょうか。

そうしたなかでも正法を護持することの大切さを知り、勇気をもって正法に帰依したのです。この一人の決意によって、やがて家族も正しい信仰を理解し、入信して御本尊の功德に浴したはずです。

もし、家庭内の反対やいさかいを心配して入信しなかったならば、その家は御本尊の功德に浴することはできなかつたでしょう。

あなたが、創価学会の誤りに気がついて脱会すれば、創価学会員である家族は反対し、家庭内に波風が立つかも知れません。だからといって、それを恐れて脱会しないでいるならば、家族を正しい仏法に導く機会を失ってしまいます。たとえ、一時の対立やいさかいがあつたとしても、あなたが強い決意をもって創価学会を脱会し、正しい信仰を貫いてこそ、大御本尊の功德をいただき、家族の真の和樂と幸せを築くことができるのです。

日蓮大聖人は、

「目連尊者は母の餓鬼の苦をすくい、淨蔵・淨眼は父の邪見をひるがえす。

此よき子の親の財となるゆへぞかし」(千日尼御返事 御書一四七八頁)

と仰せられ、まず自身が正法に帰依し、さらに身内の人を正法に導くことが大切であると教えられています。

あなたが法華講員として正しい指導のもとに信仰に励み、家族を慈しむならば、家族はあなたの判断が正しかったことを必ず理解してくれるはずです。